

# EU Indicators

## 欧州経済指標コメント：4-6月期ユーロ圏GDP速報値

発表日：2011年8月17日(水)

～特殊要因もあったが、4-6月期の景気は予想以上に弱い～

第一生命経済研究所 経済調査部  
主任エコノミスト 田中 理  
03-5221-4527

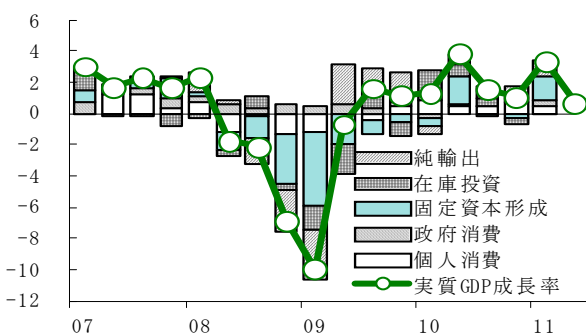
- 4-6月期のユーロ圏の実質GDP成長率の速報値は前期比+0.2%、同年率+0.7%と、前期（同+0.8%、同年率+3.4%）から大幅に減速。需要項目別の内訳は9月6日の改定値で公表される。
- 国別には、前期の高成長を牽引したドイツ（前期：同+1.3%→今期：同+0.1%）、フランス（同+0.9%→同横這い）、オランダ（同+0.9%→同+0.1%）に急ブレーキが掛かったことに加えて、イタリア（同+0.1%→同+0.3%）、スペイン（同+0.3%→同+0.2%）、ポルトガル（同▲0.6%→同横這い）など財政不安国で緩慢な成長が続いた。非公表の国では、前期に辛うじてプラス成長に転じたギリシャが再び大幅なマイナス成長に、アイルランドが前期に続いてプラス成長を確保した模様。
- 世界的な景気減速を受けた輸出拡大ペースの鈍化、財政不安国での財政引き締めの影響、原油高や財政危機を反映した家計・企業マインドの慎重化などを背景に、景気は大幅にペースダウン。ただ、ドイツの景気減速は昨年冬の寒波による建設投資の後ズレから前期が嵩上げされた反動減、フランスの景気減速は自動車買い替え支援制度の打ち切りによる駆け込み需要によって嵩上げされた前期の反動減が影響。景気の減速ペースは数字が示唆するよりもマイルドにとどまる。7-9月期入り後の景気は、各種のマインド指標が一段と慎重化、スペイン・イタリア・ギリシャでの追加の財政緊縮、金融市場の動揺による信用環境の悪化などを反映し、年率1%未満の緩慢な成長ペースが続いている模様。

■ユーロ圏GDP（前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>）

	名目GDP	実質GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本投資	在庫	輸出	輸入		
09/10-12月期	1.5	1.1	(▲ 0.7)	0.8	1.5	▲ 2.9	(▲ 0.9)	(1.8)	9.5	4.9
10/1-3月期	2.4	1.4	(1.9)	1.5	▲ 1.3	▲ 2.6	(1.9)	(▲ 0.6)	14.1	16.3
10/4-6月期	5.4	3.8	(3.2)	0.8	1.0	9.2	(0.8)	(0.6)	18.3	17.3
10/7-9月期	3.3	1.6	(0.9)	0.8	0.3	▲ 0.8	(0.5)	(0.7)	6.8	5.3
10/10-12月期	1.1	1.1	(0.2)	1.4	▲ 0.3	▲ 0.9	(▲ 0.4)	(0.9)	6.6	4.7
11/1-3月期	5.4	3.4	(2.3)	0.9	1.9	7.8	(▲ 0.1)	(1.1)	8.0	5.8
11/4-6月期	-	0.7	-	-	-	-	-	-	-	-

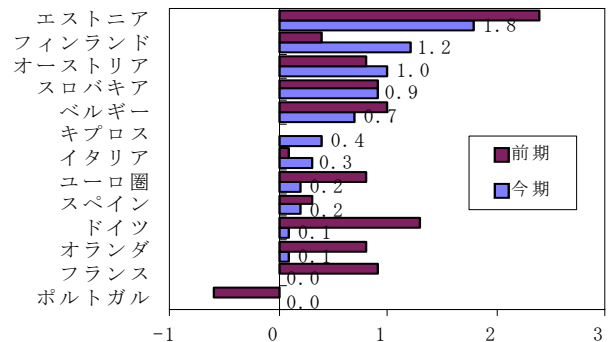
出所：Eurostat

■ユーロ圏：実質GDP成長率（前期比年率、%）



出所：Eurostat

■2011年4-6月期の実質GDP成長率（前期比、%）



出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。